

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2022年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	東邦プロジェクトA		
担当者(Instructors)	阿比留 大吉	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)			
<p>ゲストハウスTOHOのアップデートを主題とし、実践的なプロジェクトを通じた企画・プレゼンを行います。この講義は対面で実施します。コロナウイルスの影響においてゲストハウスが再開後、十分な業績回復が見込めない状況が考えられます。業績だけではないゲストハウスの新しい”価値”とはどんなものだろうか？この問いについて調査分析を行い、具体的な提案を15回を通して一緒に考えていきます。この講義で定義する「企画」とはアイデア発想のための発想力、アイデアを実現するための構想力、まとまった考えを人に伝えるための表現力の3つとし、これら3つの力を高める基本的な考え方・方法論について触れ、実践をベースとした企画とプレゼンテーションを行います。</p>			

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	履修者の数で企画チームを編成し、グループワーク形式でプロジェクトを進めます。発想力、構想力、表現力の3つのフェーズを経てプレゼンテーションを作成していただきます。毎回の講義の前半は具体的な方法論の紹介を行い、後半は実際に実践を行います。講評ではそれらのアイデアや分析したものをまとめて発表していただきます。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	【対面】オリエンテーション	「企画とは何か」について学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第2回	【対面】発想力を高める(その1)	ゲストハウスの概要、現在置かれている状況について学び、新しい価値について考える。	<input type="checkbox"/>
第3回	【対面】発想力を高める(その2)	アイデアとは何かについて学ぶ。オンラインや地域貢献などやれることを調べる。	<input type="checkbox"/>
第4回	【対面】発想力を高める(その3)	どんなことをやってみたいか、アイデア出しを行う。アイデアによって、チームを編成する。	<input type="checkbox"/>
第5回	【対面】発想力を高める(その4)	アイデアの背景にある課題や解決策などについて議論し、チームの考え方をまとめる。	<input type="checkbox"/>
第6回	【対面】構想力を高める(その1)	プロジェクトを実現するために、何をしなければならないかを整理する。	<input type="checkbox"/>
第7回	【対面】構想力を高める(その2)	プロジェクトを実現した後にどのようにして運営していくのかを整理する。	<input type="checkbox"/>
第8回	【対面】中間講評	提案の成果をまとめて中間講評を行う。	<input type="checkbox"/>
第9回	【対面】構想力を高める(その3)	プロジェクトを実現するために必要な外部の協力者について考える。	<input type="checkbox"/>
第10回	【対面】構想力を高める(その4)	プロジェクトを実現させるために協力者にどんなメリットを作れそうか考える。	<input type="checkbox"/>
第11回	【対面】表現力を高める(その1)	チームが持っている問題意識を深め、協力したくなるようなストーリーを考える。	<input type="checkbox"/>
第12回	【対面】表現力を高める(その2)	どの順番で何を説明すべきか、プレゼンの目的と構成を考える。	<input type="checkbox"/>
第13回	【対面】表現力を高める(その3)	スライドの表現について学ぶ。言葉と色、画像や動画の使い方を考える。	<input type="checkbox"/>
第14回	【対面】表現力を高める(その4)	時間内でのプレゼンの練習を行い、質疑に対する対策を行う。	<input type="checkbox"/>
第15回	【対面】最終講評	提案の講評と総括を行う。中間講評の成果との差を知る。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)	
<p>プレゼン資料を作りながら講義に取り組むことを勧めます。講義時間で間に合わない場合など、毎週4時間程度は復習し前回の成果を形にしておく和良好的です。さらに議論のプロセスを記録しておくことより早く進展させられます。復習の内容は1つのテーマに対して1枚のスライド</p>	

を目安とし、要点は何かということ整理し、それを表現するために適切は表記はどのようなものかということ議論し、スライドを作成していきます。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎週議論と作業時間を設けており、実践を通して理解を深めます。毎週プレゼンテーションのスライドを作成していただき、時間内に間に合わない場合はこれを課題とします。先週の成果に対しては時間内に個別で対応し、共通した齟齬や理解不足が見受けられれば全体でのフィードバックを行います。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
主体性	◆ 2019全学共通DP3	主体的に他者と協働して問題を解決することができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
0%			70%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

1. 平常評価について、授業参加度と議論への参加、毎週の成果物をもって70%で評価する。2. その他について、中間講評と最終講評での成果を30%で評価する。3. 1,2を合計して100%とする。地域と連携した授業活動報告会での発表・出席を必須条件とします。

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	適宜配布	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	各回のテーマに即して適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		